

令和6年度 砺波市総合教育会議（第1回）概要報告

- 1 開催日時 令和7年1月27日（月） 午後1時30分～午後2時45分
- 2 開催場所 砺波市役所 3階 小ホール
- 3 出席者 夏野市長、白江教育長、齋藤教育委員、岩崎教育委員、吉澤教育委員
- 4 出席職員 島田企画総務部長、安地教育委員会事務局長、幡谷教育総務課長、
端谷こども課長、金平生涯学習・スポーツ課長、川合教育センター所長、
嶋田企画政策課企画調整係長、田中教育総務課庶務係長
- 5 欠席者 林教育長職務代理者

6 議 事

(1) 教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について

- ア 砺波市立学校規模適正化検討委員会の進捗状況と今後のスケジュールについて
(教育総務課)
- イ 学習者用タブレット端末の更新について (教育総務課)
- ウ すべての子供の居場所づくりについて (教育センター)
- エ (仮称) 砺波市こども計画 (案) について (こども課)
- オ 砺波市文化財保存活用地域計画について (生涯学習・スポーツ課)

7 会議の概要

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶

市長 今の子供たちの状況、教育効果を考えた場合、「中学校の再編」は進めておきたい。単純な統合や合併ではなく、3つの学校で新しい学校を作るという思いで取り組んでいきたい。

GIGAスクールの1人1端末の更新について、他市町村と連携して取り組み、コストを下げながら、今までのものに繋がるようにしていきたい。未就学の関係では、庄東認定こども園が開園し、民営化のこども園として地域からも評価をいただいている。

令和7年度からの「こども計画」の策定に向けて、庁内検討委員会を立ち上げて審議し、子ども・子育て会議にお諮りするなど、準備を進めているところである。

国のこども家庭庁の設置にあわせて「こども家庭センター」をこども課内に設置し、母子保健と児童福祉が一体となり、すべての妊産婦、子育て家庭、子どもを対象に、切れ目のない相談・支援を行っている。

一方、公共施設再編計画に基づき、社会教育や文化芸術、体育施設などの再配置や今後のあり方について検討が進められており、今後、いくつかの施設の整備、改修、廃止も実施していかねばならないものと考えている。

本日は、委員の皆さんからの協議に関するご意見や重点的にとるべき施策についてご意見をいただきたいということで、よろしく願いいたした

い。

(3) 議事

ア 砺波市立学校規模適正化検討委員会の進捗状況と今後のスケジュールについて (教育総務課)

教育委員 児童数、生徒数は、昔とは本当に桁が違うほど数が少ないということを実感した。

ただ、学校に愛着を持っている人もいれば、保護者の立場として通学を心配する人、地域住民として地域の衰退を案ずる人など、いろいろな考え方があると思った。

しかしながら、こどもまんなか社会として、学校は子供たちのためであるべきであり、子供に最適な教育環境を整えてあげることが私たちの努めである。

自分たちのノスタルジーに流されたり、目先の都合に流されるのではなく、本当に子供たちのためになることを選んでいきたいと思った。

しっかり考えて取り組んでいただきたいし、今後、様々なことを調整しなければならぬことがでてくると思う。

校舎の場所、校名、校歌やPTAなどのすり合わせなど。

スピード感を持って進めていただきたい。

教育委員 適正化検討委員会は丁寧に議論を進めておられると感じている。

子供にとって何が一番いいのかと考えた時に、新しい場所でみんな一緒になってスタートしていくことが一番いいのではないかと考えている。

教育委員 3校統合となったほうが良いといった意見が多く、子供たちの未来を思うことが一番であって、大人の都合や地域の都合を優先するのは違うといった若い世代の意見が多かった。

統合する場合には、新校舎の建設とスクールバスの確保をお願いしたいという意見が一番多く聞かれた。

また、統合したほうがよいとの意見で二番目に多かったのは、部活動が増え、選択肢も増えるということで、子供たちにとっての部活動は本当に重要であり、高校にも繋がっていく。

統合によって新しい仲間が増えることによって、できることが増えて、切磋琢磨できる環境、多様な価値観に触れる幅を広げてくれると思う。

この時期が一番大事な時期であると考えている。

教育長 子供にとって何が一番いいか。子供たちの教育環境を良くすると子供の成長は間違いなくより良いものになる。

一つのキーワードは多様性であり、多様な子供たちと義務教育段階で一緒にやることは、子供たちにとって大きな刺激になり、学びの機会になり、高校や社会人になって活躍していくと思っている。

イ 学習者用タブレット端末の更新について（教育総務課）

- 教育委員 5年前にタブレットを学校で充電できる大きな充電器があったと思うが、それは使えないようになるのか。
- 教育長 充電器についてはもう使わない。現在は、個々に家で充電をしてもらっており、充電を忘れた際には学校にあるもので対応をしている。
- 教育委員 5年後についても同じように国からの補助を受けて更新することとなるのか。
- 市長 全国の市長会では、タブレット端末の更新は大きな財政負担に繋がるということと、国策として取り組むべきものを自治体や保護者に負担を強いるのはいかなものかということで、国に対して要望を行った。今回は補助制度ができ、国からの補助を受けて更新することとなったが、5年後についても同じように要望をする必要がある。

ウ すべての子供の居場所づくりについて（教育センター）

- 教育長 学校全体教育支援センターとして、校長室にも子供たちの居場所を作っている。子供たちが自分たちの思いを出せるということが一番であり、現在の授業では7割、8割ぐらいをアウトプットする時間に割いている。活性化という点でも効果がある。
- 教育委員 日本の学校はやはり丁寧だと思う。不登校のことについても海外であれば学校に来れない子に対しての支援がなかったりする。
- 教育委員 学校全体を校内教育支援センターにすることは非常によいことであり、保護者にとってもとても心強いとし、ありがたいと思われる方もおられると思う。
- 教育委員 昔は、個人情報扱うということで子供たちを職員室に入れることをしていなかったが、よく職員室にくる子がいた。
- 卒業後にわかったことで、その子は元気もあり、人気がある子なのだと思っていたが、実はいじめられていた。
- 教室に居場所がなく、寂しいから職員室に来ていたと悟った。SOSを出していたことを見逃していた。
- その後、教員同士で話をして、休み時間にはなるべく教室に行ったり、朝早めに学校に行き子供たちの様子を見るようにした。
- 学校のすべてが居場所にすることは非常にいいことだと思う。異変は必ずわかるはずである。
- 教育委員 他県の小中学校の取組として、教室に入れないう子供たちの対策として、部屋の床を畳にして、靴を脱いで入る部屋を学校が作ったということがある。
- 靴を脱ぐことでリラックスできて、安心して自分の考えや意見を話せる状態になり、その部屋に来る子も増え、また、教室に戻ってみんなと授業ができることに繋がったということで、そういった部屋の整備もいいのではないかと思う。

エ (仮称) 砺波市こども計画(案)について(こども課)

教育委員 平仮名の「こども」と頭文字が漢字の「子ども」と混在しているが、使い分けを行っているのか。

子供と若者の定義はどのようなものか。

こども課長 平仮名の「こども」は、こども基本法を踏まえ、心身の発達過程にあるものと表しており、こども基本法では、こどもは平仮名で記載されているものである。

頭文字が漢字の「子ども」は、子ども・子育て支援法における教育の事務に関わるものは、頭文字が漢字の子どもで標記するように定められている。

子供の定義は、18歳未満としており、若者の定義は30歳未満としている。また、思春期から青年期のものを若者としている。

教育委員 若者支援とは、国ではどのようなことを考えているのか。

こども課長 結婚や就職、引きこもりなど含めた支援を考えている。

オ 砺波市文化財保存活用地域計画について(生涯学習・スポーツ課)

教育委員 「庄川ジオさんぽ」を拝見したが、非常によく考えられて作られていて感心した。

「砺波正倉」にしても写真も綺麗であり、調べたい時や見たい時にすぐに探しに行くことができ、大変便利である。

産業観光化のブラッシュアップとはどのようなことを考えているのか。

生涯学習・スポーツ課長 現在、若鶴酒造の大正蔵を国の登録文化財指定の具申を国にしており、それが承認されれば、企業と一緒にPRに努めていきたいと考えている。

(4) 閉会